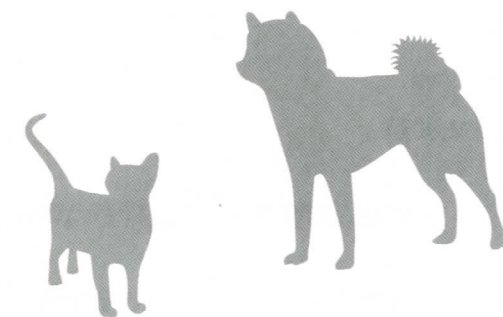
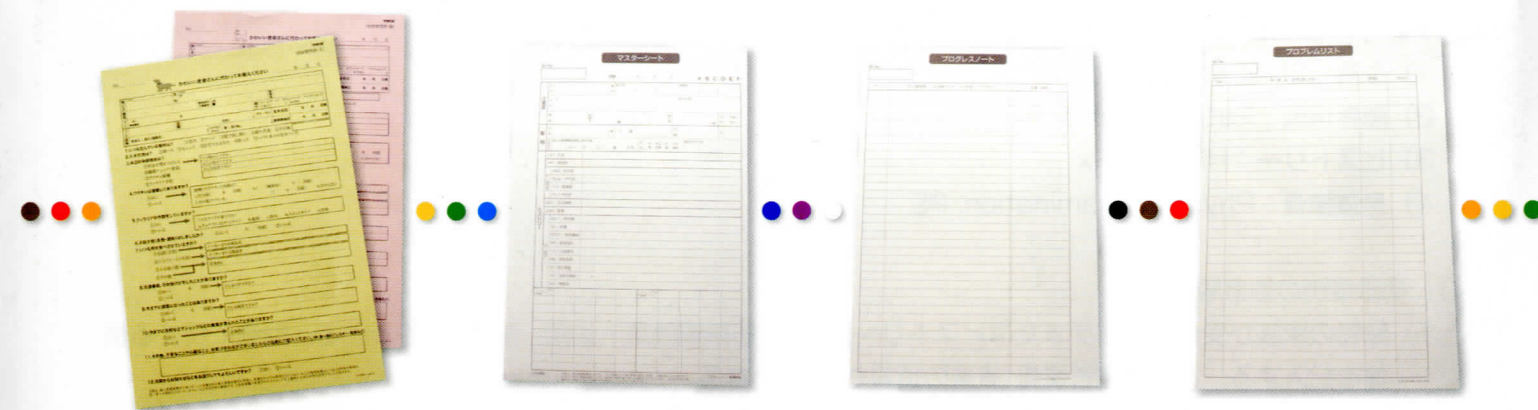


- Q. 初診質問票にほとんど書いてくれない飼い主がいるのですが。**  
**A.** 看護師などが横について、質問しながら記入してあげるとよいですね。
- Q. 初診質問票に「入手方法は」とあるのを見て、「診察と関係ないでしょう」と怒る飼い主がいるのですが。**  
**A.** 元は外にいた、ペットショップから来た、などワクチンや感染症を考える上で重要な情報になるのでお願いします、と答えましょう。
- Q. 問診を全身にわたってやろうとすると、「身体検査でわかるからいいでしょう？」と言って協力的ではない飼い主がいるのですが。**  
**A.** 今起こっていない異常、夜の間にトイレががまんできないとか、おととい一度吐いた、などという異常をもれなく知るため、正しい診断にはとても重要だと答えて下さい。
- Q. 問診をはじめると、とにかく話が長い飼い主がいるので、こんなにたくさん問診はできないのですが。**  
**A.** 必ず一定の順序で全部を網羅して5分で終わらしましょう。飼い主が長い話や関係のない話を始めたら、気分を害さないようにさえぎって、「とても重要なことですので、あとでもう一度お聞きしますね」と言って、次に進みましょう。
- Q. 「うちの子は目だけみてもらえればいいので、話はいいから目の検査やってください」という飼い主がありますが。**  
**A.** もちろん、緊急性のある問題ならば診察や治療を優先させます。しかし時間的余裕があるなら、「全身の病気と関連がないか、さっと調べますね」と言って全身の問診や身体検査を優先させましょう。
- Q. 「うちの子は元気がないので点滴だけしてもらいに來た、他のことはいいから早くやってくれ」という飼い主が多いのですが。**  
**A.** 「はい早速やりましょうね。でも点滴が必要か、どの点滴がいいかは、獣医師が決めますから、間違いがあってもいけないので」と言いましょう。
- Q. 身体検査で異常が見つかったら、そこで止まってしまう、その処置に入ってしまうことが多いのですが。**  
**A.** もちろん、緊急性のある問題ならそうしてください。しかし、緊急を要さないなら、まず全部を実施するようにしてください。
- Q. 身体検査を行うときは、聴診時など静かにしてもらいたいの、黙ってやっていますが、沈黙が長くなってしまいます。**  
**A.** 身体検査時は、聴診時を除いてしゃべりながら行ってください。これから何をやるか、今何をしているか、何がわかったか、しゃべり続けて結構です。
- Q. 通っている患者さんが久しぶりに新たな病気で来院したのは初診と同じ事をするのでしょうか。**  
**A.** 診察の体制としては初診です。本当の初診との違いは、診察券やカルテを新たに作るかどうかです。したがって、初診質問票も、「最近になって変わったことは全て書いて下さい」とお願いします。問診、身体検査はもちろん初診症例と同じに行います。これを再初診と呼びます。
- Q. 再初診の場合も初診料を頂いてよいのでしょうか。**  
**A.** かかる時間と診断の手間は初診と同じです。したがって、初診料からカルテ代を引いたくらいは頂きたいです。ただし、初診料と言うと「初診ではない」、と言われてしまいますから、簡単な再診のための再診料1と、時間がかかる再初診のための再診料2を用意しましょう。
- Q. 当院の初診料1000円で、このような初診の作業を行うことは無理ですが。**  
**A.** 初診というのは初診料を先に決めるものではありません。初診で何をやるか、何分かかるといことから、初診料を決めるべきです。しかし、初診の後には、必ず、検査や治療がついてくる、と考えれば、初診料を安くしたままでも構いません。
- Q. 初診料を値上げすると、他の病院と比べて、患者が減少しそうです。**  
**A.** 初診料の安さで病院を選ぶのではなく、内容で選んでもらえるよう、正しい仕事をすればよいと思います。診断がつかない病院は病気が治らないので、自然に患者が少なくなります。
- Q. カルテをPOMRで記入すると枚数が増えて困るのですが。**  
**A.** カルテをコンパクトにしたいという議論と、良質の診療をしたいという議論は全くかみ合いません。病院にとってどちらが大切か考えましょう。
- Q. カルテをSOAPに分けて書く意味は何ですか？**  
**A.** データの種類を分けて書くこと、思考過程を論理的な順番で書くことで、他人が理解しやすいカルテになります。とくに多人数診療の場合は重要です。
- Q. 思考過程を他の人に知られたくないのですが。**  
**A.** それではPOMRを採用しない方がよいですね。カルテの書き方には法律上の決まりというものとはとくにありません。よりよい臨床を実践したいならばPOMRが勧められます。

# POMRシステムカルテの使い方

—POMR方式によるヒストリーのとり方、問診、身体検査から  
 イニシャルプランニングへの流れ、カルテの記入法—

日本臨床獣医学フォーラム  
 会長 石田卓夫



## はじめに

ここでは、初診症例へのアプローチ法を例に、POMRと呼ばれる標準的な診察や診断の手順について概説する。POMRとはProblem-Oriented Medical Recordの略で、患者の持つ重要な問題点(problem)をまず発見し、その問題がどのようなメカニズムで発現するのかを理解し、あるいは鑑別診断(除外)リストを駆使して鑑別し、最終的な診断に到達して、特異的治療により、その問題点の解決を図る医学的手法である。POMRのアプローチでは、まずデータを集める(データベース構築)、問題点の発見と認識(プロブレムの特定)、鑑別のための診断法や治療を計画(プランニング)、データや治療効果の評価(評価および追跡)という一連の作業の繰り返しが行われる。POMRの特徴は、作業が一貫して論理的であり、後から思考過程をたどったり、誤りを探したりすることが容易なことで、一見複雑に見えるが、初心者が経験者と同じ思考過程をとれるという利点がある。

## 1. 初診症例で行うこと

初診とは、初診料の時間と料金の範囲内で、1) ミニマムデータベースをとる、2) 問題点を列挙する、3) 問題点の解明/解決についてのプランを提示する、の3つの作業を行うことである。その先には治療あるいは診断のための作業があるが、それは初診に引き続き行われるものであっても、時間的にも料金的にも初診の範囲ではない。

## 2. ミニマムデータベースとは

すべての初診症例から必ずとらなければならない情報である。POMR方式で論理的に診断を決定するためには必要不可欠の情報である。

- 1) 主訴: Chief complaint: CC
- 2) 患者情報: Patient profile: PP
- 3) ヒストリー: History: Hx
- 4) 身体検査: Physical examination: PE

## 3. 初診症例の診察順序

- 1) 動物の家族が受付でカルテまたはヒストリー質問票(初診質問票・犬用、猫用)に住所氏名と動物に関する情報を記入する。これが患者情報(家族の情報も含む)となる。
- 2) 家族がヒストリー質問票(初診質問票・犬用、猫用)の質問に対する答えを記入する。これが主訴ならびにヒストリーとなる。ヒストリーには、現病歴、既往歴、食事歴、予防歴、飼育環境が含まれている。受付または看護師がカルテの記入、質問用紙の記入を助けるのもよい。
- 3) 質問用紙で聞く項目
  - a. 患者情報(Patient Profile: PP)  
家族の情報→地理的/職業的関連  
動物に関する情報  
動物種、品種、年齢、性別、去勢避妊の有無→生殖器疾患の除外、考慮
  - b. 主訴(Chief Complaint: CC)  
本日の来院理由は? どこが悪そうですか? どんな症状ですか?
  - c. 現病歴: HPI  
いつ頃からですか?
  - d. 既往歴: PH 内科的疾患(Med)  
今までに病気になったことはありますか? どんな病気ですか?  
今までに注射などでショックなどの異常が見られたことがありますか?

- e. 既往歴: PH 外科的疾患(Surg)  
不妊手術(去勢・避妊)はしましたか?  
交通事故、その他けがをしたことがありますか?
- f. 既往歴: PH 創傷(Tra)  
交通事故、その他けがをしたことがありますか?
- g. 予防/ワクチン歴(PV)  
ワクチンは接種してありますか?  
接種したワクチンと時期は?
- h. 飼育環境/同居動物(Env)  
いつも住んでいる場所は?  
入手方法は?
- i. 食事(Diet)  
いつも何を食べてさせていますか?



- 3) 獣医師はヒストリーに目を通した上で診察室に入り、問診に入る。問診は問診票を使い、どの症例にも同じように行う。
- 4) 獣医師が身体検査を行う。これも一定のチェックリストに沿って、系統的に全身にわたる検査を行う。
- 5) ヒストリーおよび身体検査結果をカルテに転記し、あわせてここまででわかった問題点を列挙する(イニシャルプロブレムリスト)。
- 6) イニシャルプロブレムリストの中の明確な問題については、除外リストを参照し、考えられる病気を列挙する。
- 7) 当初の方針決定(イニシャルプランニング)を行う。
  - a. 診断の進め方に対する方針決定
  - b. 治療的な方針決定
  - c. クライアントエジュケーション(考えられる病気の説明など)に分けて家族に提示する。
- 8) 家族による方針の選択が行われる。

## 4. 日常のカルテの記入法の基本

- 1) カルテには一番上に担当者名、日付を書く。
- 2) 記入の順序はS, O, A, Pの順とする。
- 3) 主観情報: S は、家族の観察(問診による)、入院中の動物に対するあまり客観的でない観察事項が含まれる。「今日は調子がよさそう」、「頭を持ち上げるようになった」などはここに記入する。
- 4) 客観情報: O はすべての検査結果である。継続診療の場合も、身体検査所見(TPR, BW, 聴診など)、特殊身体検査(神経学的検査など)、臨床検査(CBC, UA, Chem など)、生体検査(心電図検査など)、画像診断(X-ray, Echo など)の結果を記入あるいは貼付する。
- 5) 評価: A では、上の検査結果はどう解釈されるか、診断は何か、鑑別すべき疾患は何か、治療経過はどうかなどを記入する。

6) プラン：Pでは、評価に基づいて、次に何をすつもりかを書く。これは、次に診断のためになにを行うか(Dxプラン)、次に治療としてなにを行うか(Txプラン)、家族になにを話すか(CEプラン)に分けて記入する。

7) 家族の同意を得た上で、次の診断や治療に進む。

8) 行った手技、投薬、処方などはカルテを縦に割った右側のスペースに書く。

9) 必要に応じ、各種のシールを使用する。

3. 初診質問票を見ながら既往歴、生活環境、食事を家族に確認し、カルテ第1ページの既往歴、生活環境、食事に記入する。

4. 初診質問票を見ながら予防歴を家族に確認し、カルテ第1ページの予防歴に記入する。下の表には予防歴を時間軸で記録する。

5. 問診とは現在出ていない症状などについて詳しく聞くものであることを説明し、問診票に沿って、全身にわたる問診を行う(約5分)。

6. 問診の結果は、カルテ第1ページの問診の項に、器官系別に記入する。

## 実践編 カルテ使用法

### ステップ1 カルテ第1ページと質問用紙の記入

1. 診察のために家族が動物を伴って初診として来院した場合、新しいカルテを作る。

2. カルテ表紙の一番上に家族に関する情報、動物に関する情報があるので、そこに記入してもらうか、あるいは初診質問票(犬用、猫用)に記入してもらう。

3. 初診質問票(犬用、猫用)を家族に渡して、記入してもらう。受付または看護師が質問用紙の記入を補助することもあるので、内容は十分に把握しておく。

4. 記入が終わったら、受付はもれがないか確認し、必要ならば患者情報の部分(家族の名前、動物種、生年月日、性別、動物の名前などをカルテの一番上に転記する。

5. カルテ、初診質問票(犬用、猫用)をそろえて、担当の獣医師に渡す。

The form contains the following sections and questions:

- 1. いつも住んでいる場所は?** (Where do you usually live?)
- 2. 入手方法は?** (How was the animal acquired?)
- 3. 本日の来院理由は?** (Reason for today's visit)
- 4. ワクチンは接種してありますか?** (Has the animal been vaccinated?)
- 5. フィラリアの予防をしていますか?** (Do you use Filaria prevention?)
- 6. 不妊手術(去勢・避妊)はしましたか?** (Has the animal been spayed/neutered?)
- 7. いつも何を食べていますか?** (What does the animal usually eat?)
- 8. 交通事故、その他けがをしたことがありますか?** (Has the animal ever been in an accident or injured?)
- 9. 今までに病気になったことはありますか?** (Has the animal ever been sick?)
- 10. 今までに注射などでショックなどの異常が見られたことがありますか?** (Has the animal ever had a reaction to injections or other treatments?)
- 11. その他、不安なことや心配なこと、お気づきの点がございましたら自由にご記入ください。(例:食べ物のアレルギー、性格など)** (Other concerns or observations)
- 12. 当院からお知らせなどをお送りしてもよろしいですか?** (Do you want to receive notices from our clinic?)

### ステップ2 診察室に入り問診を行う

1. 獣医師は家族の名前、動物の性別・名前と来院理由を覚え、診察室に入る。

2. 初診質問票を見ながら、主訴と現病歴(いつから)を家族に確認し、カルテ第1ページの主訴、現病歴に記入する。

The checklist includes the following items:

- 一般状態(GC):** a)元気がいまままでどおりですか? b)力強さはいまままでどおりですか? c)疲れやすさはいまままでどおりですか? d)運動には変化がありませんか? e)いまままでより眠ることが多くなりましたか? f)食欲はいまままでどおりですか? g)水はいまままでどおり飲みますか? h)体重に変化はありましたか? i)熱はあるようでしたか? j)ぐったりしたようが見られましたか? k)落ちつかない様子が見られましたか? l)攻撃的になったことはありますか?
- 心血管系(CV):** a)運動時、震れることがありますか? b)運動時、咳をすることがありますか? c)腹部が膨らんで水がたまったようなことはありませんか? d)全身が水腫れのようなことはありませんか? e)手アノーズを触ったことはありますか? f)気絶したことはありますか?
- 呼吸器系(RE):** a)苦しいようは見られましたか? b)呼吸のようすはいままだと変わっていますか?
- 消化器系(GI):** a)物を食べられないようすですか? b)吐くことはありますか? c)吐き気は見られましたか? d)嘔吐のあるようすでしたか? e)便の回数はいまままでどおりですか? f)便は下痢や軟便が見られましたか? g)便の中に血や粘液が混じっていましたか? h)便の中や肛門の周りに虫のようなものは見られましたか? i)全身や顔が黄色くなったことはありますか?
- 皮膚(SK):** a)色に変化はありますか? b)毛づや、手ざわりに変化はありませんか? c)毛が抜けたりしたことがありますか? d)かゆがっていましたか? e)皮膚に傷やできもの、あるいは盛り上がったところがありましたか?
- 眼・耳鼻咽喉(EENT):** a)視力や視野に変化はありましたか? b)目が赤くなったことはありますか? c)眼やにがでていましたか? d)聴力に変化はありましたか? e)耳の中が臭いことはありましたか? f)耳から分泌物が出たことはありましたか? g)頭を左右に激しく振ることはありましたか? h)耳にかゆみや痛みがあるようでしたか? i)鼻から鼻水や分泌物が出ていましたか? j)くしゃみや鼻をすすることはありましたか? k)声に変化や、いびきなどはありましたか? l)咳に気づいたことはありましたか? m)呼吸をするときに音が聞こえませんでしたか? n)呼吸が困難なようすは見られましたか? o)チアノーゼが見られたことはありましたか?
- 骨格筋系(MS):** a)手足や全身に痛みが見られるようでしたか? b)関節が腫れたことはありますか? c)硬直やぎくしゃくした動きは見られましたか?
- 神経系(NV):** a)意識を失ったことはありますか? b)ふるえたりするものはありますか? c)痙攣を起こしたことはありますか? d)歩き方に異常はありますか? e)麻痺がみられたことはありますか?

The Master Sheet table shows vaccination records for the year 2003:

Year	5種	Rab	Typh	IS	PV	5種	Rab	Typh	IS
2003	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2004	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2005	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2006	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2007	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2008	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2009	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2010	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2011	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

### ステップ3 身体検査を行いプログレスノートに記入

1. カルテ第2ページプログレスノートに日付を記入し、(S)として主訴、問診上の異常を書く。

2. 5つのバイタルサインである、T・P・R、痛みの有無、栄養状態を評価して、体重とともに(O)として書く。

3. 問診とほぼ同じ順番で身体検査を行い(神経系とリンパ節を追加)、身体検査シールを利用して結果を記入する。

## ステップ4 イニシャルプランニング：方針決定

- ここまでの問題点を、主訴、問診、身体検査から整理して、(A)としてイニシャルプロブレムリストを書く。
- とくに重大な問題を選び、それに対する鑑別診断リスト(除外リスト)が利用できれば書く。
- 鑑別診断リストにしたがって、今後のプランを立て(診断、治療、家族への説明)、(P)としてイニシャルプランを書く。
- イニシャルプランを説明してインフォームドコンセントを行い、家族の選択に基づいて次の方針を決定して、カルテに書く。

2014  
7/15 (S) PU/PD, 腹E, 多食  
腹囲増大

(O) T 38.0 P 80 R 18/min  
BW 3.5 kg 糞5g BCS 3/5

DC一般検査  正常  異常  
SK 被毛皮膚  正常  異常  
EENT 眼耳鼻  正常  異常  
MS 姿勢神経系  正常  異常  
CV 心動脈系  正常  異常  
RC 呼吸器系  正常  異常  
GI 消化器系  正常  異常  
UG 泌尿生殖器系  正常  異常  
NV 神経系  正常  異常  
LUN リンパ  正常  異常

(A) イニシャルプロブレムリスト  
1. PU/PD  
2. 腹E  
3. 多食  
4. 腹部膨満

(P) Dx CBC/Chem/UA  
Dx Xray/Echo  
CE 若し疑わしき病  
- クラウニング  
- その他除外性  
- 糖尿病、高血圧、腎臓

DDX PU/PD  
子宮蓄膿症 (No)  
クランク  
糖尿病  
腎臓病  
腎臓病  
高血圧  
PFD不全  
PFD不全  
尿管症/膀胱炎  
尿管症/膀胱炎

DDX 腹部膨満  
内臓臓器  
腹水  
マシ  
肥満

## ステップ5 プロブレムリスト記入法

- 発見された問題点を時系列で記入する。
- 発見日を必ず入れる。
- 以降の診察で問題点が改善されていれば、完治日を入れる。
- プロブレムリストはカルテとは一緒に綴じないで、ファイルに入れておく。
- 以降の診察では、完治日の入っていないプロブレムを継続してフォローアップする。

NO	問題点 (PROBLEM)	発見日	完治日
1	胆泥症	2014/7/10	
2	高Ca血症	2014/8/13	
3	PU/PD	2014/8/13	
4	急性小腸性下痢	2014/9/15	2014/9/16

## ステップ6 初診に引き続き検査や治療に入る場合のカルテの記入法

- 別のプログレスノートの一番上から書くのがよい。
- 一番上に担当者名、日付を書き、これからアプローチしようとする問題点があれば書く。とくにどの問題ということがなければ、スクリーニング検査と書いてもよい。

- 記入の順序はS, O, A, Pの順とする。
- ここでの主観情報：Sには、インフォームドコンセントの結果、家族が何を選択したかを書けよ。
- 客観情報：Oにはすべての検査結果を書く。特殊身体検査(神経学的検査など)、臨床検査(CBC, UA, Chemなど)、生体検査(心電図検査など)、画像診断(X-ray, Echoなど)の結果を記入あるいは貼付する。必要に応じ、各種のシールを使用する。
- 評価：Aでは、上の検査結果はどう解釈されるか、診断は何かを記入する。
- プラン：Pでは、評価に基づいて、次に何をやるつもりかを書く。次に診断のためになにを行うか(Dxプラン)、次に治療としてなにを行うか(Txプラン)、家族になにを話すか(CEプラン)に分けて記入する。
- 行った手技、投薬、処方などはカルテ右側のスペースに書くことで、会計のための集計が簡単になる。

## ステップ7 各種シールの使い方

- 再診時に再度問診を行った場合は、SR：問診のシールに結果を転記して、カルテでは(S)の項目に貼る。
- 初診時ならびに再診時の身体検査所見は、PE：身体検査のシールに結果を転記して、カルテでは(O)の項目に貼る。
- 血液検査はCBCのシールの項目で実施して、そのシールに結果を転記して、カルテでは(O)の項目に貼る。
- 病気の診断、高齢動物健康診断における血液化学スクリーニング検査はScreening Chemistryのシールの項目で実施して、そのシールに結果を転記して、カルテでは(O)の項目に貼る。
- 尿検査、糞便検査は、UA/Fecalのシールの項目で実施して、そのシールに結果を転記して、カルテでは(O)の項目に貼る。
- 若齢動物の不妊/去勢手術に際しての術前検査は、Presurgical Screenのシールの項目で実施して、そのシールに結果を転記して、カルテでは(O)の項目に貼る。その際、CBC, UAについては別のシールを利用する。

